

超多収飼料米が畜産・大パニックを防ぐ”シンポジウム

日 時 2008年11月28日(金) 午後1時半～5時

場 所 エデュカス東京

千代田区二番町12-1 JR四谷駅・市ヶ谷駅から徒歩7分、03(5210)3511

主 催 畜産・大パニック阻止実行委員会 共同代表：上原公子、清水鳩子

プログラム

1、飼料米生産を支援している生協からの報告

生活クラブ事業連合生協連合会（庄内みどり農協）

パルシステム生協連合会

東都生活協同組合

コープとうきょう（コープネット事業連合） *コープとうきょうは文書での報告。

2、特別報告、「超多収飼料米が日本の畜産と水田農業を救う」

東京農業大学農学部畜産マネジメント研究室、信岡誠治博士

3、シンポジウムと全体討論

パネラー

- ・畜産・酪農生産者⇒全国養鶏経営者会議、石澤直志会長及び畜産農民全国協議会代表
- ・超多収飼料米を耕畜連携で生産している稲作生産者⇒庄内みどり農協の飼料米生産指導

責任者

- ・消費者団体代表⇒全国消費者団体連絡会、蓮尾隆子運営委員
- ・飼料米生産支援の生協代表⇒生活クラブ事業連合生協連合会、加藤好一会長
- ・超多収飼料米の実践的研究者⇒東京農業大学畜産マネジメント研究室、信岡誠治博士
- ・コーディネーター⇒自然エネルギー研究センター、若狭良治 取締役・東京支所長

代表挨拶 畜産・大パニック阻止実行委員会 共同代表：上原公子)

皆様こんにちは。まだ金曜日ですが、昼間からこんなに大勢お集まりいただきありがとうございます。受付でみましたら、遠くは秋田、山形、岩手からもおいでいただきありがとうございます。共同代表のひとりであります。上原公子と申します。ちょっとは賢い消費者のひとり、30年間、生活クラブで活動して参りましたので、少しは賢いと思い暮らしてきましたが、この間次々と食料の問題が起こってまいりました。餃子事件続いてバターが生協やスーパーから消える、このことで何がわかったかといいますと、原油高騰により、各生産者は第一次産業の人だけでなく、いろいろな生産者、あらゆる活動している人

たちが苦勞しているのがわかってきましたが、餃子事件やバターが消えるのでわかったのは、実はもう生産者が行くところがないほどに追い詰められ、消費者はどこで信用してどこで買ったらいいか判らないという国家安全保障の崩壊ということです。

日本の食糧自給率は四〇%と言われてきましたが、このように深く他国に依存しながら我々の暮らしを成り立たせて命の原点を確保するのが難しいことがわかったわけです。

そこで畜産農家の方たちがやっていけないというのを聞きまして、去る七月二六日、第一回目の生産者の皆さんにきていただいて学習会を開きました。

さらにびっくりしましたが、私自身は農家との連携があり状況を少しはわかっているつもりでいましたが、畜産業界というところがよくわからなかった。

実にいろいろな問題を抱えているということと、一番ショックだったのは畜産と農業が連携していないということです。

飼料のかなりの部分が輸入されているとしても、少しは地場の農地で作られていると思っていました。

しかし連携されていないということは、まさに今要求されている環境問題の循環型というところが断ち切られたままこういう状況があったのだということが私にとって大きな問題として浮かび上がってきました。

テレビでも報道されましたが、日本の今の現状は消費者と生産者が断ち切られ、生産者同士も実は地域の中で断ち切られ、重要な食料という問題がアメリカの世界の食糧占領といえますか国家戦略のモデルケースとして日本の農政がそういう状況におかれてきている結果であったということです。

これはしっかりと根本的問題について考えなければいけないチャンスがきたと思っています。

本日は消費者そして生産者、たぶんこんな形で一同に会してお話をするのは初めてと思いますが、われわれの生物として人間の命を守るため、基本的原則論としては、自給ということが経済的に自立した国家の原則というのは頭でわかっていたのですが、目先の解決だけでなく、きちんと解決するために消費者も考え、生産者も考えていくという輪を作って今後大きく農政を変えていく突破口にしたいと考えています。

すでに、生協のみなさん中心に生産者と流通と消費者が結びついていろいろな試みをされています。水田をなくさない。

日本の気候風土にあった水田をつぶさずに、飼料米を育てながら畜産をいかに農業も生かしていく循環型の試みがされているわけですが、きょうは信岡先生から基調報告がありますが、それに大きな希望をもたらす超がつく多収飼料米が現にあるということで、これを使えば水田を生かしながら循環型農業が可能であるし、今まで畜産業者が依存しなければいけなかった外国からの飼料もかなりの部分賄われていく希望ある提案もあるかと思っています。

そういうことを通じながら私達は実質的問題として政府にも提案していくという今後の問題につなげていきたいと思っています。

ここで議論されていくことを積み上げながら、次はできれば国会議員も参加して国会議論にしていきたいと思いますが、非常に希望ある会議になると思います。

遠いところからまたお忙しいなかお集まりいただきましたことに実行委員会一同感謝申し上げます、実りある会になりますよう心から祈っています。

本日はありがとうございました。